

新しいイチジク品種の育成

1 イチジク品種の普及と育種の状況

- (1) 生産量全国4位の兵庫のイチジクであるが、栽培品種は少ない。県内ではほとんど「柵(ます)井ドーフィン」のみ。「柵井ドーフィン」は寒さに弱く、冷え込む内陸部ではできない。産地が限られる。大果で豊産性であるが、品質は中程度。
- (2) 日本におけるイチジク育種の取組はきわめて少ない。



図 兵庫のイチジク「柵井ドーフィン」

育種のねらい

- (1) 豊産性で寒さに強い品種
- (2) 良食味かつ外観などに特徴のある品種
- (3) 省力的な栽培法(一文字整枝など)が可能な品種

2 これまでの育種の経過



図 Caprifig6085の果実

1983年: 柵井 × Caprifig*6085交配
(MC-1、MC-2を選抜)

1999年: 蓬萊(ほうらい)柿 × MC-1 (Capri Type*) 交配

2001年: 発生した実生を定植

2003年: ピオレ・ドーフィンに高接ぎ

2006年: 6系統が結実 H-MC系

* Caprifig、Capri Typeとは:
イチジクの野生(原生)種とされ、
花粉を持つ。

3 選抜した系統の果実



図 選抜した系統の果実(記号は系統)

表 選抜した系統の果実品質

系統№	果実重g	糖度	果皮色
H-MC1	140.0	16.8	紫黒色
H-MC2	79.2	15.5	紫黒色
H-MC3	75.7	16.3	紫黒色
H-MC4	58.5	17.0	紫黒色
H-MC5	64.5	18.3	赤紫色
H-MC6	73.4	13.7	淡紅色
MC2	36.5	17.1	黄色
柵井ドーフィン	71.8	16.4	紫褐色

現時点で...

- 1 大果となるのは、H-MC1。
- 2 結実性は、H-MC3、4、6がよい。
- 3 食味のよいのはH-MC5、MC-2。
- 4 外観に特色があるのはH-MC5、MC2。

今後の展望

- (1) 消費者に好まれる品種の検討→嗜好調査
- (2) 新たな需要(直売、業務用等)向け品種検討